

2026 年度 高3英語総合 S 〈夏期英文解釈演習3/3〉

(A)〈大阪大〉

重要語彙・語句・構文

- 1 Enlightenment [inláitənmənt] 啓蒙、啓蒙主義
 - 2 philosophy [filásəfi] 哲学、思想
 - 3 be imbued with ～ ～に満ちている、～を深く帯びている
 - 4 a sense of ～ ～という感覚、～という意識
 - 5 life being ～ 人生が～であること
 - 6 in transit 移動中で、途中にあって
 - 7 from A to B A から B へ
 - 8 primitive [prímətiv] 原始的な、未発達な
 - 9 origin [ó:rədʒin] 起源、出発点
 - 10 utopian [ju:tóupiən] 理想郷の、理想的な
 - 11 maintenance [méintənəns] 維持、保持
 - 12 things as they are 物事の現状、物事を現在のままにしておくこと
 - 13 not so much A as B A というよりむしろ B、A ではなくむしろ B
 - 14 an end in itself それ自体が目的であるもの、自己目的
 - 15 a means to an end 目的を達成するための手段
 - 16 significance [signífikəns] 重要性、意義
 - 17 stem from ～ ～に由来する、～から生じる
 - 18 its being ～ それが～であること
 - 19 staging post 中継地点、途中の立ち寄り地点
 - 20 on the way to ～ ～へ向かう途中で
-

構文解説

① Enlightenment philosophy is imbued with a sense of life being in transit from a primitive origin to a utopian end.

[構文]骨格は Enlightenment philosophy / is imbued with / a sense ～。「啓蒙思想は～という意識に満ちている」。be imbued with ～ は「～に満ちている・～を深く帯びている」。of life being in transit ～ では、life が動名詞 being の意味上の主語で、a sense of [life being ...]「人生が～であるという感覚」となる。in transit from A to B は「A から B へ移行する途中にある」。したがって、「啓蒙思想には、人生は原始的な出発点から理想的な終着点へと移行していく途中にある、という意識が深く浸透している」となる。

② The maintenance of things as they are is not so much an end in itself as a means to an end, ...

[構文]骨格は The maintenance of things as they are / is / not so much A as B. not so much A as B「Aというよりむしろ B」で、A=an end in itself「それ自体が目的であるもの」、B=a means to an end「ある目的を達成するための手段」。things as they are は「物事を現在あるがままの状態」という意味で、the maintenance of things as they are は「現状をそのまま維持すること」。したがって、「現状を維持することは、それ自体が目的なのではなく、むしろ別の目的を達成するための手段である」となる。

③ the significance of the present stems from its being a staging post on the way to a better future.

[構文]骨格は the significance of the present / stems from / its being a staging post ~。stem from ~「~に由来する」で、from の目的語である its being ~ は動名詞句。its は動名詞 being の意味上の主語で、「現在が~であること」を表す。a staging post on the way to ~ は「~へ向かう途中の中継地点」。したがって、「現在の意義は、それがよりよい未来へ向かう途中の中継地点であることに由来する」となる。

(A)下線部和訳 | 採点のポイント

① Enlightenment philosophy is imbued with ~[1点]

be imbued with ~「~に満ちている・~を深く帯びている」を正確に処理し、「啓蒙思想には~という意識が深く浸透している」などと訳せていること。imbue を単純な「含む」とするより、思想全体を貫く意識であることを表せるとよい。

② a sense of life being in transit from a primitive origin to a utopian end[2点]

life が being の意味上の主語であることを捉え、「人生が原始的な起源から理想的な終着点へと移行していく途中にあるという意識」と訳せていること。from A to B の方向性を正確に示すことも重要。

③ The maintenance of things as they are[1点]

things as they are を「物事が現在あるがままの状態」と捉え、全体を「現状をそのまま維持すること」と自然に訳せていること。as they are の処理を落とすと減点。

④ is not so much an end in itself as a means to an end[2点]

not so much A as B「Aというよりむしろ B」を正確に把握し、A=an end in itself、B=a means to an end と捉えること。「それ自体が目的なのではなく、むしろ別の目的を達成するための手段である」と訳せていることが重要。

⑤ the significance of the present stems from ~[1点]

stem from ～「～に由来する・～から生じる」を正確に処理し、「現在の意義は～に由来する」と訳せていること。significance はここでは単なる「重要性」より「意義」とすると文脈に合う。

⑥ its being a staging post[2 点]

its が動名詞 being の意味上の主語であり、「それ＝現在が中継地点であること」と捉えられていること。staging post は文字どおりの「駅」ではなく、文脈上「途中の中継地点・一段階」と訳す。

⑦ on the way to a better future[1 点]

on the way to ～「～へ向かう途中で」を正確に処理し、a staging post と結びつけて「よりよい未来へ向かう途中の中継地点」と訳せていること。

採点目安:10 点満点

9～10 点:life being ～ / not so much A as B / things as they are / its being ～ の構造をすべて正確に把握し、「現在＝未来への途中」という思想的な対比まで自然な日本語で表現できている。

7～8 点:文全体の骨格は正確だが、imbued / in transit / staging post / an end in itself などの語句に軽微な不正確さがある。

5～6 点:大意は取れているが、not so much A as B または life / its+being の意味上の主語の処理に重要な誤りがある。

4 点以下:比較・対比関係を捉えられず、「現在を維持すること自体が目的なのではなく、よりよい未来へ進むための一段階である」という本文の中心的主張が崩れている。

最重要採点ポイントは、① life / its を being の意味上の主語として処理すること、② not so much A as B の対比を正確に捉えること、③「現在」を完成された目的ではなく「よりよい未来へ向かう途中の段階」とする啓蒙思想の進歩観を正確に表現できているかどうかです。

(A)全訳

啓蒙思想には、人生とは原始的な出発点から理想的な終着点へと移行していく途中にあるものだ、という意識が深く浸透している。物事を現在あるがままの状態に維持することは、それ自体が目的なのではなく、むしろある目的を達成するための手段であり、現在の意義は、それがよりよい未来へ向かう途中の中継地点であることに由来している。

(B)

Progress and the Meaning of the Present

重要語彙・語句・構文

- 1 faith in progress 進歩に対する信念
 - 2 rest on ~ ~に基づく、~を基礎とする
 - 3 assumption [ə'sʌmpʃən] 仮定、前提
 - 4 be capable of V-ing Vする能力がある、Vすることができる
 - 5 move beyond ~ ~を越えて進む、~を乗り越える
 - 6 inherited from ~ ~から受け継がれた
 - 7 accordingly [ə'kɔ:rdɪŋli] したがって、それに応じて
 - 8 regard A as B AをBとみなす
 - 9 lie in ~ ~にある、~に存する
 - 10 make O C OをCの状態にする
 - 11 conceivable [kənsi:vəbl] 考えられる、想像可能な
 - 12 What matters is ~ 重要なのは~である
 - 13 less A than B AというよりむしろB、AよりB
 - 14 enable A to V AがVすることを可能にする
 - 15 in the long run 長期的には、長い目で見れば
 - 16 the one S V SがVするもの
 - 17 the 比較級 ~, the 比較級 ... ~すればするほど、ますます…
 - 18 all the more ~ それだけいっそう~、なおさら~
 - 19 owing to ~ ~のために、~が理由で
 - 20 not as A but as B AとしてではなくBとして
-

構文解説

① Its value lies, rather, in the possibilities it opens up, in the changes it makes conceivable, and in the future toward which it seems to point.

[構文]骨格は Its value / lies / in A, in B, and in C で、lie in ~「~にある」の後ろに 3 つの in ~ が共通して並列されている。A=the possibilities [it opens up]、B=the changes [it makes conceivable]、C=the future [toward which it seems to point]。A・B では目的格の関係代名詞が省略され、B の make O C は「O を C にする」。C の toward which は前置詞+関係代名詞。したがって、「現在の価値は、それが切り開く可能性、想像可能にする変化、そしてそれが指し示しているように思われる未来にある」となる。

② What matters, from this perspective, is less whether the existing order provides stability and security than whether it enables men

and women to imagine and in the long run create a form of society freer and more humane than the one they have inherited.

[構文]骨格は What matters / is / less A than B. What matters「重要なこと」が主語で、less A than B「AというよりむしろB」によって、A=whether the existing order provides stability and security、B=whether it enables ... という2つのwhether節が共通・対比関係になっている。Bではenable A to Vのtoがimagineとcreateに共通し、to imagine and [to] createと考える。in the long runは「長期的には」。さらにa form of society [freer and more humane than ~]では比較級の形容詞句が後ろからsocietyを説明し、the one they have inheritedのoneはform of societyを受けている。

③ The more conscious people become of the distance separating what exists from what might exist, the more dissatisfied they tend to be with institutions once accepted without question.

[構文]the 比較級~, the 比較級...「~すればするほど、それだけ…」の相関比較構文。前半はpeople become more conscious of~, 後半はthey tend to be more dissatisfied with~が比較級の前置によって語順を変えたもの。the distance separating A from Bは「AとBを隔てる距離」で、A=what exists「現実に存在するもの」、B=what might exist「存在しうるもの」。institutions once accepted without questionは過去分詞句で、「かつて疑問を抱かれることなく受け入れられていた制度」を表す。

④ They may consequently become all the more willing to embrace change, owing to their growing conviction that the present is valuable not as a destination in itself, but as a point of departure for a better future.

[構文]骨格は They / may become / all the more willing to embrace change. all the+比較級は「ある理由があるため、それだけいっそう~」という意味で、その理由をowing to their growing conviction ~「~という確信が強まっているために」が示している。conviction that~のthat節はconvictionの内容を説明する同格節。その内部ではnot as A but as B「AとしてではなくBとして」が用いられ、A=a destination in itself、B=a point of departure for a better future。したがって、「現在はそれ自体が目的地なのではなく、よりよい未来への出発点なのだ」という確信が強まるため、人々はいっそう変化を受け入れようとする」となる。

① What matters, from this perspective, is less A than B[2 点]

What matters「重要なのは～である」と less A than B「A というよりむしろ B」を正確に把握し、「この観点から重要なのは、A かどうかということより、むしろ B かどうかということである」と訳せていること。A・B がともに whether 節である点も重要。

② whether it enables men and women to imagine and in the long run create ～[1 点]

enable A to V「A が V することを可能にする」を捉え、to が imagine と create に共通していることを理解すること。in the long run は「長期的には・やがて」と文脈に即して処理する。

③ a form of society freer and more humane than the one they have inherited[1 点]

freer and more humane than ～ が a form of society を後ろから説明していること、the one が既出の form of society を受けていることを捉え、「彼らが受け継いだ社会より自由で人間的な社会のあり方」などと訳せていること。

④ The more conscious people become ..., the more dissatisfied they tend to be ～[2 点]

the 比較級 ～, the 比較級 ...「～すればするほど、ますます…」を正確に処理し、「人々が～を強く意識するようになればなるほど、～に対する不満も強くなる傾向がある」と訳せていること。二つの比較級の対応関係を崩すと大きく減点。

⑤ the distance separating what exists from what might exist[1 点]

separate A from B「A と B を隔てる」と 2 つの what 節を正確に捉え、「現実存在するものと、存在しうるものとの隔たり」と訳せていること。what exists / what might exist の現実と可能性の対比が重要。

⑥ all the more willing to embrace change, owing to their growing conviction that ～[2 点]

all the more ～「それだけいっそう～」を正確に処理し、その程度を強める理由が owing to ～「～のために」によって示されていることを捉える。「～という確信が強まっているため、それだけいっそう変化を受け入れようとする」と訳せていること。

⑦ not as a destination in itself, but as a point of departure for a better future[1 点]

not as A but as B「A としてではなく B として」の対比を正確に捉え、「現在を、それ自体が目的地であるものとしてではなく、よりよい未来への出発点として」と訳せていること。destination / point of departure の対照を明確にする。

採点目安:10 点満点

9～10点:less A than B / enable A to V の共通関係 / the 比較級～the 比較級 / all the more ～ owing to ... / not as A but as B をすべて正確に把握し、比較と対比を自然な日本語で再現できている。

7～8点:文全体の骨格と比較関係は正確だが、in the long run / the one / conviction / point of departure などの一部に軽微な不正確さがある。

5～6点:大意は取れているが、less A than B / 相関比較 / all the more ～ owing to ... のいずれかに重要な誤りがある。

4点以下:複数の比較構文と共通関係を捉えられず、「現在の安定そのものより未来を生み出す可能性を重視する」という本文の論理が崩れている。

最重要採点ポイントは、① less A than B による2つの whether 節の対比、② to imagine and [to] create における to の共通、③ the 比較級～the 比較級の相関関係、④ all the more ～ と owing to ... の「理由があるため、それだけいっそう」という関係を正確に見抜けるかどうかです。

(B)全訳

進歩と「現在」の意味

現代における進歩への信念は、人間社会には、過去から受け継いだ状況を越えて進んでいく力がある、という前提に基づいている。したがって現在は、単に今存在しているというだけの理由で、そのまま維持されるべき状態とみなされることはほとんどない。むしろ現在の価値は、それが切り開く可能性、それによって考えることが可能になる変化、そして、それが指し示しているように思われる未来にある。

この観点から重要なのは、既存の秩序が安定と安心をもたらすかどうかということよりも、それによって人々が、受け継いできた社会よりも自由で人間的な社会のあり方を思い描き、長期的にはそれを作り出すことができるかどうかということである。現実存在するものと、存在しうるものとの隔たりを人々が強く意識するようになれば、かつては疑問を抱くことなく受け入れていた制度に対する不満も強くなる傾向がある。そして、現在はそれ自体が目的地なのではなく、よりよい未来へ向かうための出発点として価値があるのだという確信が強まるために、人々はいっそう進んで変化を受け入れようとするようになるのである。